

平安・鎌倉古道

平安・鎌倉古道

平安時代、箱根越えの道は、現在の長泉町・裾野市・御殿場市をとおり足柄峠を越える足柄道でした。

延暦二十一年（八〇二年）正月、富士山の大噴火で足柄道がふさがり、そのため三島大社から元山中をとおり芦ノ湖の南岸に出て箱根町へと抜けるこの「平安・鎌倉古道」が開かれました。翌年、足柄道は復旧され再び官道として通行できたのですが、「平安・鎌倉古道」は険しいが距離が短いなど便利なため多く利用されたようです。

鎌倉時代『十六夜日記』の作者は、「二十八日に三島の国府を出発。足柄越えは、遠道になるので、箱根路をとおることにして、山道にかかった」とこの道をとおったことが書いてあります。

江戸時代に箱根旧街道がつくられると、この道を利用する人はほとんどいなくなり、地元の人々がとおるだけになりました。

平成二年七月、ゴルフ場建設にあたり元山中の山ノ神神社南側を発掘したところ、中世の古銭や銅製品、漆器、陶器などが出土し、平安・鎌倉古道が確認されました。

（「復元された平安・鎌倉古道」説明板より）



三島市教育委員会

文化振興課 文化財課

〒411-0035 静岡県三島市大宮町一丁目8番38号

TEL 055-983-2672

FAX 055-983-0870

E-mail: bunka@city.mishima.shizuoka.jp

中世の東海道～平安・鎌倉古道～

延暦21年(802年)正月、富士山が噴火しました。平安時代に起こったこの大噴火により、それまで箱根越えの道として使われていた「足柄路」が塞がってしまいます。足柄路は現在の長泉町・裾野市・御殿場市を通り足柄峠を越える道です。通行できなくなった、この足柄路に代わり開かれたのが「箱根路」、すなわち現在「平安・鎌倉古道」と呼ばれている道です。この道は三嶋大社から北へ向かい、願成寺、小沢、元山中を歩いて海の方から湖畔に出るルートをとります。翌年、足柄路は復旧し、再び通行できるようになりましたが、箱根路は引き続き、利用されたようです。

鎌倉時代になると、京、鎌倉間の人々の往来が激しくなりました。武士たちの間では、箱根権現、伊豆山権現、三嶋明神の三社へ参拝する三所詣【さんしょもうで】が盛んとなり、便の良さや距離が近いという利点のために、箱根路の利用が進みました。源頼朝もこのルートを通り三所詣をしたと伝わっています。『十六夜日記』【いざよいにっき】の著者である阿仏尼【あぶつに】も、この道を利用したと記しており、また、時宗の開祖一遍上人一行など、仏教を布教する人々も多く通りました。平安・鎌倉古道はまさに、政治の道であり、信仰の道でもあったのです。



一遍上人絵伝 ～三嶋明神～

建治三年十月二十八日
(一二七七年)
伊豆の國府を出でて箱根路にかかる、
いまだ夜深かりければ、
たまくしげ箱根の山をいそげども
なほ明けがたきよき雲のそら
足柄山は道遠しとて箱根路にかか
なりけり、
ゆかしさをそなたの雲をそばだてし
よそになしめるあしがらの山

『十六夜日記』阿仏尼

阿仏尼【あぶつに】は鎌倉時代中期の女流歌人。夫の荘園の地頭職相続をめぐる訴えのため、この年から鎌倉へ下りました。遠回りの足柄路よりも、早道の箱根路を選んでいきます。箱根路の往来が増えていく理由のひとつでしょう。

南北朝の時代には、後醍醐天皇・新田義貞を中心とする南朝軍と、足利尊氏・直義の北朝軍とが激しく対立しますが、その戦いの一つ「竹の下の合戦」は、足柄路の西側の竹の下(小山町)と箱根路の西斜面を中心とした戦いでした。『太平記』には元山中周辺の古い地名「野七里・山七里・嶽七里」での激しい戦闘の様子が記されています。そしてまた、この元山中には、鎌倉時代から戦国時代まで、「山中関所」が設けられていたことが知られています。

鎌倉時代から室町時代にかけて、平安・鎌倉古道の南側にもうひとつの箱根越えの道が開かれました。これは、江戸時代の東海道とほぼ重なる尾根道で、三嶋大社から川原ヶ谷、市山、山中新田を通り、箱根峠に至る道と推定されます。

この新たな道は、戦国時代の頃には主要道とされていたようで、小田原を本拠地としていた北条氏は、西方からの攻撃に対する守りの城を築く際に、この道を城中に取り込みました。こうして築城されたのが山中城です。山中城は、天正18年(1590年)3月、豊臣秀吉の大軍の攻撃により落城してしまいますが、この時にはすでに平安・鎌倉古道はさびれていたといわれています。

かつての平安・鎌倉古道の様子は、元山中遺跡などの遺構からうかがうことができます。



山中城跡 障子堀



箱根旧街道 石畳

山中関所

元山中に「山中関所」がいつ設けられたのかは明らかではありませんが、室町時代までには開設されていたようです。

箱根山を控えた場所に位置するため、軍事的色合いの強いものと考えられますが、交通税を徴収する経済的関所の可能性もあります。どちらであろうと、鎌倉時代から、室町時代にかけて平安・鎌倉古道の通行者が多かったことを示すものでしょう。



山中関所跡の碑

元山中遺跡



元山中遺跡

元山中遺跡は、三島市川原ヶ谷字元山中にあります。ここからは、道幅約8mの古道跡が発見されましたが、この古道は文献で推定されている位置との一致から、「平安・鎌倉古道」に相当すると考えられています。道には幅20~40cm、長さ0.7~2.0mの細い溝が等間隔で幾筋も見つかっています。これは道の保護、またはすべり止めのため丸太を敷き並べた跡ではないかと想像できます。

箱根の「古道入口」から
三嶋大社まで総距離11.2km、
所要時間は約4時間！

では、スタート～！



① 「推定平安鎌倉古道」石碑

平安・鎌倉古道の道沿いには、点々と「推定平安鎌倉古道」と刻まれた石碑が立っています。これは小出正吾の筆によるもので、裏面には「昭和五十年三月」の日付けがあります。

平安・鎌倉古道には、その存在を示す確実な資料がまだないために、これらの石碑には「推定」という文字が刻まれているのです。



「推定平安鎌倉古道」の碑

② 諏訪神社・山神社

平成2年7月、ゴルフ場建設にあたりこの山神社南側を発掘したところ、中世の古銭や銅製品、漆器、陶器などが出土し、平安・鎌倉古道が確認されました。

諏訪神社の祭神は大国主命（オオクニノミコト）の子で武神の建御名方命（タケミナカタノミコト）です。

天正18年、豊臣軍と北条軍の山中城における戦いに際しては、豊臣軍の徳川家康がこの地に陣を構えました。



諏訪神社

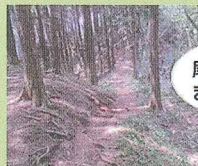
推定 平安・鎌倉古道まっぷ

箱根峠のバス停から

- A 箱根旧街道入口まで0.7km
- B ゴルフ場分岐まで1.8km
- C 別荘地案内図まで2.3km
- D 古道入口まで2.7km



尾根道が続きます。



推定平安・鎌倉古道



箱根の里ハイキングコース

道沿いには、所々こんな案内板が立っています。



箱根の里ハイキングコースの地点とぶつかりますが、ここを通過します。

① 「推定平安鎌倉古道」石碑



笹竹に覆われた道が続きます。

扇平の分岐点です。説明板と案内板があります。

山神社の横には、平安・鎌倉古道の石碑と説明板があります。



② 諏訪神社 山神社

ここから山の中の道。アスファルトとはしばらくお別れです。



③ 山中関所跡

関所跡を示す石碑が、畑の中の大きな木の下にあります。これは大正13年に造られました。「山中関所」が、この元山中の地にいつ頃設けられたのかは明らかではありませんが、室町時代までには開設されていたようです。



山中関所跡の石碑

④ 願成寺

古今和歌集の語句の解釈に関する秘説を、特定の人に伝授することを「古今伝授（こきんでんじゆ）」と言いますが、ここ願成寺で、歌人の東常縁（とうのつねより）から連歌師の宗祇（そうぎ）へ古今伝授が行われたと伝わっています。また、願成寺には平安時代末期に造られ、伊豆地方における重要な仏像の一つである、本尊阿彌陀如来像や三島市の天然記念物に指定されているクスなどがあります。



「古今伝授の寺」の碑

⑤ 三嶋曆師の館 (旧河合家住宅主屋)

河合家は代々三嶋曆を製作していた曆師でした。この建物は木造平屋建て、漆喰塗りの真壁造りで屋根は現在では作られていない特殊な瓦葺となっており、『起り破風（むくりはぶ）』の屋根をもつ式台玄関に特色があります。



三嶋曆師の館

⑥ 三嶋大社

三嶋大社は、古くから伊豆一宮として各地の人々から尊崇を受けた名社です。源頼朝も源氏再興の祈願をしました。祭神は、大山祇命（オオヤマツミノミコト）と事代主神（コトシロヌシノカミ）です。境内には宝物館や若山牧水の歌碑などもあります。



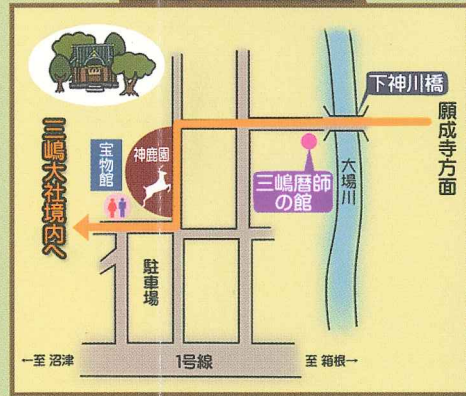
三嶋大社本殿



山中関所跡周辺地図



三嶋大社周辺地図



三嶋大社周辺地図



竹藪を過ぎると広い畑の中の道に出ます。



休憩できます！

茶臼山展望台

指導標と道しるべの石碑があります。これが最後のものとなります。



分かれ道注意！案内板がないので間違えないように気を付けて！

小沢分岐

三島ジャンボゴルフセンター

山田中学校

老人福祉センター

山田小学校

錦田一里塚

旭ヶ丘上

旭ヶ丘

加茂川町

④ 願成寺

⑤ 三嶋曆師の館

⑥ 三嶋大社

川原ヶ谷

三嶋大社

標高25m

本町



推定平安・鎌倉古道
箱根旧街道